

## 令和3年度 学校評価まとめ(児童・保護者・教職員)

わかる授業づくり	7月	12月	差	平均
肯定的回答	93%	93%	0%	93%

よさを伸ばす指導	7月	12月	差	平均
肯定的回答	93%	93%	0%	93%

望ましい人間関係	7月	12月	差	平均
肯定的回答	97%	98%	1%	97%

進んであいさつ	7月	12月	差	平均
肯定的回答	91%	87%	-4%	89%

教育相談体制の整備	7月	12月	差	平均
肯定的回答	83%	80%	-3%	82%

ていねいな言葉遣い	7月	12月	差	平均
肯定的回答	89%	88%	-1%	88%

学ぶ意欲を育てる学習環境	7月	12月	差	平均
肯定的回答	95%	98%	3%	97%

学校の安心安全	7月	12月	差	平均
肯定的回答	91%	93%	2%	92%

発表や話の聞き方	7月	12月	差	平均
肯定的回答	86%	80%	-6%	83%

タブレットの活用	7月	12月	差	平均
肯定的回答	90%	81%	-9%	86%

学校のきまり	7月	12月	差	平均
肯定的回答	90%	91%	1%	91%

体力向上への取組	7月	12月	差	平均
肯定的回答	83%	87%	4%	85%

家庭学習の習慣	7月	12月	差	平均
肯定的回答	81%	79%	-2%	80%

校内の環境整備	7月	12月	差	平均
肯定的回答	97%	97%	0%	97%

潤いのある環境づくり	7月	12月	差	平均
肯定的回答	95%	97%	2%	96%

登下校の安全マナー	7月	12月	差	平均
肯定的回答	96%	98%	2%	97%

### 課題分析(平均85%未満を課題とする)

①教育相談体制の整備(肯定的回答の内訳 児童1・2年生86%,3～6年生65%,保護者91%,教職員100%)

→3～6年生の質問項目「あなたは困ったときに先生に相談していますか 65%」の肯定的回答が低く、全体の平均も下がっていることから、学年が上がるにつれ、成長過程で児童の心情的に先生に相談はしない・しづらい傾向がある。相談できる環境づくりとして、安心できる学級づくりはもちろんのこと、ICTを活用した定期的な児童相談アンケート、保健室前に「心のポスト」を設置し、相談しやすい環境づくりに努めていく。

②発表や話の聞き方(肯定的回答の内訳 児童1・2年生79%,3～6年生79%,保護者77%,教職員質問項目「発表や話の聞き方の指導をしているか」100%)

→児童「人の話をよく聞いて、進んで発表しているか」、保護者「人の話を聞いたり、考えを発表したりすることができるか」の質問項目の肯定的回答がやや低い。今年度から学校の研究主題を「他者の考えや思いを的確に捉える力をもつ児童の育成」に設定し、国語科を中心に授業の研究や読書活動の推進を進めている。また、幸手スタンダード授業5をモデルに心のスイッチを入れ、全員が授業に参加し、考えたくなる課題の設定を工夫していく。

③家庭学習の習慣(肯定的回答の内訳 児童1・2年生71%,3～6年生79%,保護者79%,教職員質問項目「家庭学習の指導をしているか」100%)

→児童の質問項目「毎日時間を決めて家庭学習していますか」。「時間を決めて」という言葉を外すと数値は上がるが、学習習慣をつけるためにだいたいの時間を決め生活リズムをつくりたい。低学年が習慣づくまでは時間がかかるが、家庭での見守りや声かけをお願いしたい。低学年の肯定的回答がやや低く、学年が上がるほど家庭学習が定着していると感じている。